

開催地名	埼玉県川口市
開催日時	令和6年1月21日（日） 10：30 ～ 11：15 / 14：15 ～ 15：00
開催場所	イオンモール川口
語り部	武蔵野 美和 （岩手県陸前高田市）
参加者	川口市危機管理課 12名、地域住民 18名
開催経緯	実体験に基づく講話等を市民が希望しているが、当市では災害の経験を有する者が少なく対応が難しい。また、避難所の運営等について、行政職員が全て運営し、備蓄品は避難者全員に十分準備されている、という考えが根強く残っており、市民の自助と共助の意識向上が課題であることから、語り部による講演を防災意識向上の手立てとしたい。
内容	① 陸前高田の一本松 この一本松がある場所は、元々陸前高田ユースホテルの建物がありたくさんの人の宿泊施設として訪れるような場所であった。海辺にあった高田松原には7万本もの松があったが、すべて地震の後の津波にのみこまれてしまい、たった一本のみになってしまった。今では「奇跡の一本松」は、希望の象徴となっている。 ② 防災について 災いを防ぐと書いて「防災」。 災害とは、命・財産・土地（地面）・ライフライン（ガス、水道、電気）などすべての命に影響があるものが失われ、自分たちの笑顔を奪ってしまうものである。 「いざ！のために備えましょう」と言うが、「いざ！」はいつ来るのかわからない。「いつも」と「いざ」の差を小さくすること、我慢しなくていいように備えること、それが防災である。 では、具体的にどう考えていったらよいか。 挨拶は誰にでもできる安否の確認であり、情報を近隣の方と分かち合うとても大切な防災活動と言える。 また、被災していると温かい食べ物を我慢しなきゃいけないものと考えてしまいがちである。だが、我慢しなくていいように備えることも防災である。自宅にあるもので三日分のメニューを作ってみたり、ビニール袋を使っておかずやご飯をひと鍋で一度に作ってみたり、家族で話し合って「何が食べたいか」「何が好きか」などリクエストするのも立派な防災といえる。高価な防災セットを買って備えることだけが防災ではない。 ③ 命を守るために備えよう お水は1日に一人あたりどれくらい必要なのか。飲用だけで一人あたり2リットル、煮炊きなどに使うなら一人あたり3リットル必要とも言われている。それを考えると、持ち出せる量は決まってくる。持ち出し袋に何を入れて持ち出すのか考えてみよう。避難所で心落ち着かせるものは人それぞれである。2、3日分として本当に自分にとって必

要なものを考えてみる。

小さなお子さんは本当にリュックを持ち出すというより「えらぶ」ことが大切である。必ずしも避難所に行くことが避難ではない。家が安全ならとどまることもまた避難である。自宅から避難する時はこれを持つ、自宅にとどまる時は備蓄を考える。

いつ災害が起こるかわからないので、日頃自分の持ち歩くものにも工夫があるとよい。例えば、スマートフォンを肩から下げる紐パラコードは色々役にたつ。コードを一本の紐にして大判のタオルを下げれば授乳スペースを作るパーティションになったり、ものを括る紐にもなる。てぬぐいをポーチのように折って持ち歩くなど、今持っているもので自分なりに役立てることができる。

小さなようかんなどや好きなお菓子を持ち歩く。食べてしまったらいつものカバンやリュックに補充する。そうやってしかたなく備えるものではなく、好きなものをローリングストックする考え方は美味しくない高カロリーな備蓄よりも自分の心の安心にも繋がると考える。

「いざ」がいつ来るかわからない。自分にとって大切な人・ものを守るために、何が必要か、自分だけの持ち出し袋や常に持ち歩くものなど考えてみてほしい。



開催地より

東日本大震災を経験された語り部から、避難所での生活や非常持出袋等の具体的なお話を伺うことができ、改めて災害に対するイメージを強く認識することが出来た。今日のお話を参考にさせて頂き、市民への防災意識向上と自助・共助の体制強化に取り組んでいきたい。